

## アドバイザー派遣事業実施レポート

研修実施団体	考え、議論する道徳授業づくり部会	
研修テーマ	考え、議論する道徳の実現に向けて 「特別の教科 道徳」	
研修期日	平成30年11月9日（金曜日）	
実施場所	鳥取市立用瀬小学校	
アドバイザー	勤務先	国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部
	職・氏名	総括研究官・西野 真由美 先生

<西野先生の指導助言を受けて>

### ○公開授業について

主題名：分けへだてのない心 C-（11）公正、公平、社会正義

教材名：「つくえふき」 出典『みんなのどうとく2年』（学研）

- ・課題意識を持たせるために、道徳的価値や主題の文言の一部を伏せて、児童に提示する方法は、やめるべきである。国語のように答えがあると児童に感じさせてしまう。答えがない道徳を作るべきである。多様な考えが出てほしい場合には活用できる方法である。
- ・特別扱いが悪いわけではない。特別扱いがある方がよいときもある。「あまり仲のよくない人には普通、自分に近い者は大切にしたい」というのは当然の気持ちである。この場合は特別扱いが何故よくないのかを考えさせることが大切である。「仲のよい人に特別にしてあげたい」という気持ちを抑える気持ちを持たせる。公正、公平は自然に発生する感情ではないので、自己の心情をコントロールし、理由を考えて判断できる力を持たせる必要がある。

### ○評価について

- ・道徳の評価は、他の教科と異なり、理解度を測るものではない。よって、その授業の終盤が評価になるのではなく、学びの姿を見取り、プロセスを評価する。発言のない児童にも、今日の学習をどう思ったのか、たずねなければならない。
- ・本時の振り返りの際「公正、公平は大切だなあ。」と振り返った児童より、「公正、公平は難しいなあ。」と振り返った児童の方が、道徳的価値について自分ごととして考え、なかなか実現できないことへの理解が深まっているのではないだろうか。「分からなかった。」「難しいなあ。」「どうしていけばいいだろう。」といった言葉の裏にある、その子なりの変容を見取っていくことが大切である。
- ・授業の中で、「何で。」「どうしてそう思うの。」と切り返し発問をすることで、自分を見つめる姿勢を身に付けさせていく。また、ノートやワークシートは綴って、変化を自分自身で感じられるようにする。特に高学年は、ポートフォリオ評価のように自分を振り返る時が必要である。

### ○授業研究について

- ・振り返りで価値がずれていても1時間で修正しようと思わず、行事とつなげたり、総合的な学習の時間と関わらせたりして深めていく。同じ価値項目の教材を3つ程度で単元化すると深まる。
- ・教師の手法を協議する研究会ではなく、座席表を活用して児童の印象的な言葉や動きをメモし、児童のことだけに集中する研究会を行ってはどうか。何を見取ればよいのかが身に付き、教師の子どもを見る目、つまり成長を評価する目が養われる。